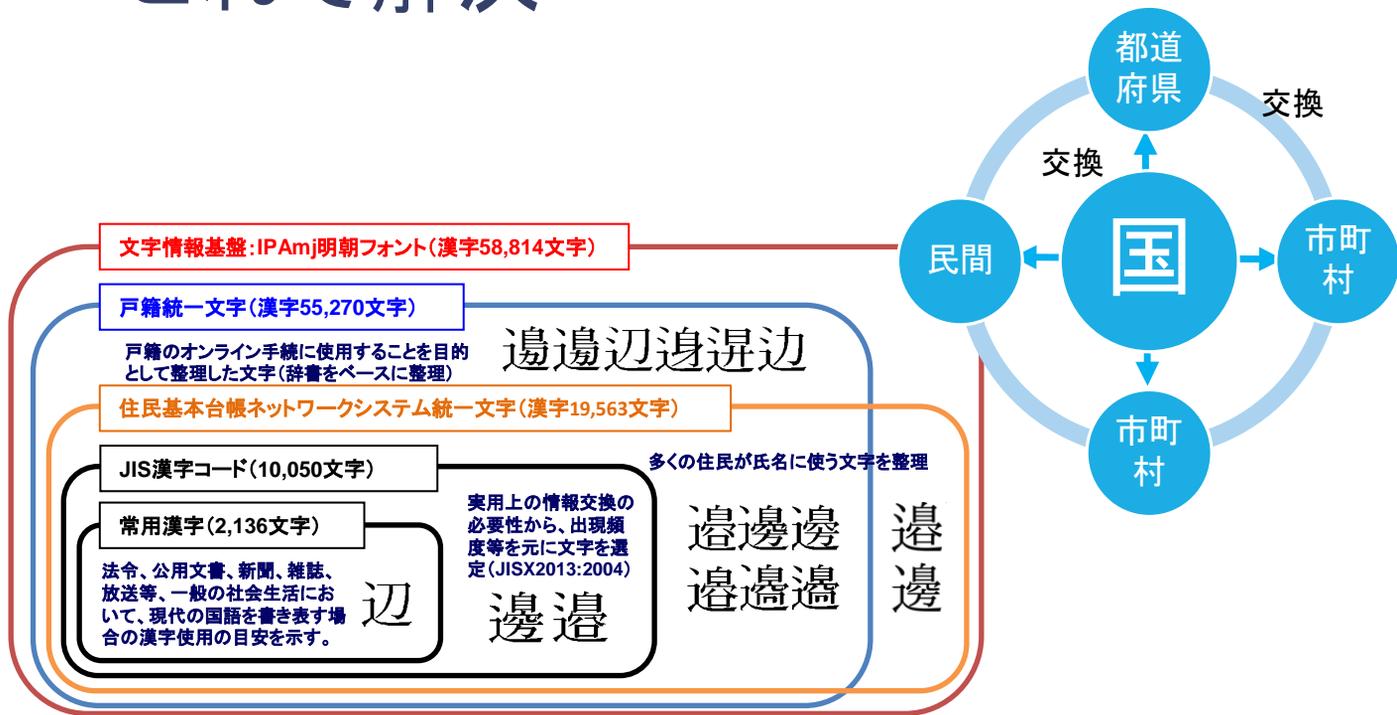


文字情報基盤 IPAmj

行政機関で使う文字の問題は これで解決



文字情報基盤を使うことで、あらゆる機関との文字情報の交換が簡単にできるようになります

IT戦略「世界最先端IT国家創造宣言」(平成25年6月閣議決定)の電子行政部分で、「文字の標準化・共通化に関しては、今後整備する情報システムにおいては、国際標準に適合した文字情報基盤を活用することを原則とする。」と今後の活用が国の方針として決定されています。

文字情報基盤の内容

IPAmj明朝フォント

- 拡大縮小が自由にできるOpentypeフォーマット
- 文字の画像ファイルも併せて提供

文字情報一覧表

- 各種文字コード間の関係や部首などの文字の基本情報を一覧で整理

文字情報基盤導入ガイド

- 業務によって使うべき文字範囲の例示など基本的方針

文字情報基盤導入テクニカルスタディ

- コード化完了までの暫定運用推奨案

文字縮退変換マップ(H26予定)

- 文字情報基盤からJIS第4水準までの縮退対応表

参考:変体仮名一覧

- 変体仮名のフォントを提供し、文字情報基盤の運用を補助

導入事例

- 札幌市などでの文字情報基盤導入実証の結果を整理

調達仕様書記載例(H26予定)

- 調達仕様書への記載例を提示

文字データベース(構築中)

- 文字をだれでも使いやすくするデータベース

文字

IPAmj明朝フォ
ント

文字
情報
一覧

変体仮名フォ
ント

一覧

ガイド

導入ガイド

テクニカル
スタディ

支援ツール

縮退マップ

導入事例

仕様例

導入方法

文字に関する導入基本方針の決定

- 中長期にどのように管理していくかの方針を決める
- 導入は、組織内で一斉に行う必要はなく、順次実施してもよい

現在、保有している文字の棚卸

- 同定方針を決める(実施しながら整理していくのもよい)
- 各システムで持っている外字を文字情報基盤の文字に同定作業をする

導入ルールの整備

- どの業務で、文字をどの範囲(文字数)で提供するか方針を決める
- 縮退ができない文字をひらがな表記にするなどの方針の整理
- 外部連携にあたっての外字領域(私用面:PUP)利用方針の整理

仕様への記載

- 調達仕様に文字情報基盤の活用を記載する。

導入によるメリット

- ・外字管理コストの削減
- ・幅広い業務での一貫した作業
- ・文字によるベンダロックインの回避
- ・目的別に文字を使い分けることで、行政サービスと行政効率化を同時に実現

FAQ

Q:文字情報基盤を導入するのに条件はありますか？

A:文字情報基盤は、無料で誰でもご利用になれます。異体字をまとめて扱うことができるIVSの機能を使うには、windows7以降のパソコンを使う等の制限がありますが、その機能を使わなければ、制限はありません。

Q:ベンダから外字は自由に作れますといわれますが、そのほうが住民の要望に応えられるのではないですか？

A:独自の外字を作ると、運用にも費用が掛かることとなります。また、外部との情報連携ができないなど、運用に支障が生じます。新たな外字を作らずに、文字情報基盤に対応した文字を活用することで、これらの課題やベンダロックインを回避することができます。

Q:戸籍統一文字、住民基本台帳ネットワークシステム統一文字、登記統一文字との関係はどのようになっていますか。

A:戸籍統一文字、住民基本台帳ネットワークシステム統一文字は、文字情報基盤ですべて含んでおり、コード間の関係も一覧として提供しています。登記文字についても、必要な文字については、縮退マップを提供する予定です。また、戸籍統一文字、住民基本台帳ネットワークシステム統一文字、登記統一文字はその業務の専用文字ですが、文字情報基盤は、すべての業務に使える汎用の文字セットです。

Q:文字情報基盤は、変体仮名を含んでいないのではないですか。

A:文字情報基盤本体には変体仮名を含んでいません。それは、変体仮名には同定基準が存在しないためです。しかし、自治体が導入するにあたり困るとのご意見を頂戴するため、参考データとして提供を開始いたします。

Q:こんなに多くの文字を提供されても困るのではないのでしょうか？

A:文字情報基盤では、6万字近いフルセットからJISの範囲への縮退マップを提供する予定です。用途に応じて、文字の利用サイズを自由に選択できます。

Q:ベンダが文字情報基盤に対応できませんと言っていますがどうしたらよいのでしょうか？

A:文字情報基盤は、技術的には導入は難しくありません。ベンダに対して、再度の確認をお勧めします。

Q:コード化されていない1900文字はどのように扱えばよろしいのでしょうか？

A:コード化が完了するまでの数年間は、暫定的にプライベートな外字領域(私用面:PUP)を使う方を例示しています。本来は各利用者が個別に使うための領域ですが、暫定的な対応策として示しています。